

令和5年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

授業で英語による言語活動を行い(授業中の50%以上の時間は英語による言語活動)、児童が育成すべき「コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力」を高める。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校が100%となった。
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校が91%となり、改善点等を認識している。

未だ改善が必要な点

- ①授業における、児童の英語による言語活動時間の状況(授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合)が83%であり、全国平均92%と比較して低い状況にある。
- ②ALT等の参画の数値が低い。例えば、「児童のやり取りの相手にALTが参画した学校」は87.5%であり、全国平均97.7%と比較して低い状況にある。

2. 分析

- ①すぐにでも改善できることについては必ず実施するよう研修会等で指導を行った。
- ②学習到達目標の設定により、教師が目標に対する達成状況を意識するようになった。
 - ①英語専科指導の教員配置校の割合は約65%であり、その場合、児童の言語活動の時間が十分に取れていると思われるが、その他の場合は、英語専科指導の教員のように十分に言語活動を取り入れた授業をしたいとは思っているものの、教材研究等の時間が取れていない状況があると考えられる。
 - ②ALTとの打合せの時間が十分にとることができず、また、教師もALTの活用方法や協働の在り方に理解が十分でない状況も考えられる。

3. 施策・事業

- ①②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定および達成状況の把握については、100%を目標とし、すべての学校が達成するよう継続して指導していく。公表率についても100%を目標としているが、31%しか達成しておらず、学校、児童生徒、保護者、地域等でさらなる情報共有ができるよう研修会等で指導していく。
 - ①②児童は授業で英語による言語活動を行う(授業中の50%以上の時間は英語による言語活動)を基本として、児童が育成すべきコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を高めるよう指導していく。また、授業の準備やALTとの打ち合わせの時間の確保や活用の在り方等について研修会等で情報交換したり、指導したりしていく。
- 〈その他〉次のような対策を行っていく。
- ・CAN-DOリストの見直し・活用
 - ・佐賀県英語学習デジタル教材の本格的な運用
 - ・小学校・中学校英語指導力等向上研修
 - ・パフォーマンステストの事例集の活用
 - ・小・中・高を通じたデジタル教科書を使用した公開授業の実施
- ・一定の英語力を有する小学校教師の新規採用については、2020年度9.5%、2021年度11%、2022年度13%と目標15%に達していないが、順調に伸びている。採用時に特別選考の枠を設けて、英語力がある教員の採用を推進していく。

令和5年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

教師の英語による授業を充実させ(発話の50%以上は英語)、また、授業における生徒の英語による言語活動の充実を行い(授業中の50%以上の時間は英語による言語活動)、生徒が育成すべき「コミュニケーションを図る資質・能力」を高める。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校が100%となった。
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校が82%となり、改善点等を認識している。

未だ改善が必要な点

- ①授業における、英語担当教師の英語使用状況(発話の50%以上を英語で行っている学校の割合)が57%であり、全国平均74%と比較して低い状況にある。
- ②授業における、生徒の英語による言語活動時間の状況(授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合)が60%であり、全国平均75%と比較して、低い状況にある。

2. 分析

- ①すぐにでも改善できることについては必ず実施するよう研修会等で指導を行った。
- ②学習到達目標の設定により、教師が目標に対する達成状況を意識するようになった。

- ①②求められる英語力を有する生徒の割合37%が全国平均49%を大きく下回っており、教師が生徒の実態に寄りすぎた、日本語で授業を進めることが多かったと考えられ、また、言語活動を行う時間を仕組む時間が少なかったと考えられる。

3. 施策・事業

- ①②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定および達成状況の把握については、100%を目標とし、すべての学校が達成するよう継続して指導していく。公表率についても100%を目標としているが、37%しか達成しておらず、学校、児童生徒、保護者、地域等でさらなる情報共有ができるよう研修会等で指導していく。

- ①②教師は授業を英語で行い(発話の50%以上は英語)、生徒は授業で英語による言語活動を行う(授業中の50%以上の時間は英語による言語活動)ことを基本としながら、また、育成すべき資質・能力を踏まえ、生徒の実態に合わせた授業展開となるよう研修会等で指導していく。その他、次の項目について、重点的な対策を行っていく。

- ・CAN-DOリストの見直し・活用
- ・佐賀県英語学習デジタル教材の本格的な運用
- ・小学校・中学校英語指導力等向上研修
- ・パフォーマンステストの事例集の活用
- ・小・中・高を通じたデジタル教科書を使用した公開授業の実施

令和 5 年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

「指導と評価の一体化」を目指した授業づくりによる生徒の英語力向上（CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒 50%以上）

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標において、設定、公表、達成状況の把握をしている学校が 100%となった。
- ②パフォーマンステストにおいて、スピーキング・ライティング両方の実施率は、昨年度 62%から82%と上昇し、全国平均を上回った。

未だ改善が必要な点

- ①授業における、英語担当教師の英語使用状況(発話の50%以上を英語で行っている学校の割合)が 47%であり、昨年度の 52%を下回った。
- ②英語教育に関する小学校・中学校との連携においては昨年度の数値を下回った。

2. 分析

- ①小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業等を通して、各学校における「CAN-DOリスト」の作成、生徒への周知を徹底することができた。
- ②英語指導力向上研修において、パフォーマンステストについての研修会を行うとともに、事例集を作成することにより教員の意識が向上した。

- ①特に普通科での英語担当教師の英語使用状況が昨年度よりも低い結果であった。教師主体の授業構成となり、安易に日本語を使用していることが考えられる。
- ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、小学校、中学校との連携への積極性が薄れたことが原因と考えられる。

3. 施策・事業

- ①②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表および達成状況の把握については、すべての学校が100%を達成するだけでなく、見直し・活用をするように継続して指導を行う。
- また、パフォーマンステスト事例集の活用を促し、「話すこと」、「書くこと」の指導と評価の充実させることで、4技能・5領域のバランスの取れた英語力向上を図る。
- ①②学習指導要領にある「授業は英語で行うことを基本とする」ことの意義等を再認識し、授業で実践するよう指導する。また、英語教育強化事業等で目標等の共有を行い、小学校、中学校との連携を強化する。これらの改善点を踏まえながら、以下の取組を通して生徒の英語力向上を目指す。
- 英語指導力向上研修
 - ・指導と評価の一体化についての研修会（文部科学省調査官による講義・協議）
 - ・校内研修（公開授業の実施等）
 - ・文部科学省主催オンライン・オンデマンド研修
 - ・小・中学校の公開授業参観
- CAN-DOリストの見直し・活用
- 佐賀県英語学習デジタル教材の活用